

第8回 幼児教育実践学会 第七分科会 口答発表資料

8月19日（土） 9:30～10:50

研究テーマ
5歳児研究 卒園制作
「創作劇作り～青さん劇（青劇）～
を通しての学び」

話題提供者 長野県 こどもの森幼稚園 主任 宮崎 温
上越教育大学大学院 准教授 山口 美和先生

こどもの森幼稚園 園紹介



- 本園は、長野県長野市北部、標高1,050mの飯綱高原に位置しています。長野市内より車で約30分の距離。はっきりとした四季の中、起伏のある園庭には、自然のままの林や野原、沢があります。また近隣の高原には戸隠そばや天の岩戸伝説で有名な戸隠神社のある戸隠高原をはじめ身近なところに豊かな森や山をいただき、それらのフィールドを生かして本物の自然や、生き物に触れる、実体験に基づいた教育を大切にします。
- 現在園児は55名。近隣の高原から来ている子達が2割、市内より送迎バスで通ってくる子が8割です。
- 保育形態は縦割り保育と横割り保育を活動に応じて使い分けています。クラス担任はありますが先生たちはチーム保育で子どもたちを見ています。また先生たちは親しみを持てるよう、ニックネームで呼ばれ私はあっちゃんと呼ばれています。
- 本園は1983年「こどもの森幼児教室」として、6名の園児と内田夫妻(妻内田明子は現在こどもの森幼稚園園長)で始まりました。2005年4月に認可幼稚園、学校法人いづな学園こどもの森幼稚園となり今年で12年目。こどもの森幼児教室時代と合わせると34年の歴史がある幼稚園です。2015年6月には、園舎の耐震性能を確保するための改築により、創立者内田幸一氏が仲間と手作りで作り上げた、丸太小屋の園舎と別れを告げ、園舎の立て替えを行いました。2016年1月に新園舎が完成。丸太小屋の園舎同様、木材をふんだんに使った園舎となっております。



信州型自然保育認定制度

- 長野県では平成27年4月より信州型自然保育認定制度「信州やまほいくの郷」という制度を推進しています。
- 現在は県内111団体が認定。(2017年7月現在)
- 自然豊かな長野県で子どもたちが「好奇心や創造力」「自己肯定感や主体性」「コミュニケーションや共感力」「忍耐力や自立心」「健康な身体と体力」などを育てていきます。
- 認定制度には二種類あり「質、量共に自然保育に重点をおいて取り組む」例えば...一週間のうち15時間以上野外で体験活動が行われるなど「特化型」
- 「他のプログラムとあわせて、自然保育にも積極的に取り組んでいる」「普及型」



こどもの森幼稚園は特化型の認定を受けている幼稚園です



第67回全国植樹祭に出演

- 特化型の認定を受けたこともあり、今年の6月5日に長野県で52年ぶりに開催された、全国植樹祭のエピローグ部門へ出演。
- そこでは森のお散歩をテーマに宮崎が9年前に作詞・作曲した「森のこどもたち」の曲を歌と手話で披露。また松本蟻ヶ崎高校書道部の皆さんとコラボパフォーマンス行いました。



幼稚園の紹介

- 映像をご覧ください

(※発表当日にお見せします)

卒園制作開始

卒園制作の進め方

- 年長（青さん）は卒園に向けて、お父さん、お母さん、年中（黄色さん）、年少（桃さん）、先生たちへ感謝の気持ちを込めて、「何か出来ないか？」と子どもたちに投げかけてみる。
- 三年間こどもの森幼稚園で学んだこと、感じてきた事を生かし、一つの事をやり遂げようとする年長。
- この制作を通して、人間関係や自分自身の課題をどのように乗り越えていくかを子どもたちの様子や保育者の関わりを通して研究することにした

「何か一つすごい事はできないか？」
と相談開始！
映像をご覧ください
(※発表当日にお見せします)



制作期間と内容

- 今回は年長児(青さん)は23名で劇制作を行う。
- 保育者は2名(宮崎・佐久間(2名とも男性保育者))
- 劇の長さは30分以内の劇を目標に制作
- 制作期間は1月下旬～3月の卒園式まで(保育日数約30日弱)の中、行事や他の活動がない日は毎日30分～1時間ほど制作を行っていく。
- 本番は二回。
- 一回目は年少さん年中さんとのお別れ会で披露(3月16日)
- 二回目は卒園式の日にお父さん、お母さんに披露(3月20日)

卒園制作での保育者の願いと思い

- 子どもが主体的になるような活動展開。
- 一人ひとりの個性を大切に、子ども達を伸ばしてあげたい。
- 出来なかったことに挑戦することで、失敗してもいいから「やってみよう」と思えたことを認め、やれたことを自信にしてほしい。
- 子どもたちだけでは作れなかったり、達成できないことは保育者も共に考え、きっかけを与えていく。
(保育者は過去7作品青さんと作ってきた経験あり)
- みんなで「青さん劇」というすごいものを作れたことに、達成感を持ち、自信を持って卒園してほしい。

創作劇「青さん劇」通称：青劇
をやることは決まりました。
子どもたちに役を聞いてみます。
映像をご覧ください。
(※発表当日にお見せします)

一人ひとりに役を聞いてみた所

今回子ども達がやってみたいといった役

- 鬼(1人)
- カネチョロ(カナヘビ)(3人)
- 忍者(6人)
- ウサギ(1人)
- へび(1人)
- チーター(1人)
- 葉っぱの妖精(1人)
- お花の妖精(1人)
- 雪の結晶の妖精(雪の妖精)(9人)

(今回初めての試み)劇の中で自分の役で挑戦したいことはどんなこと？

その役でやってみたいこと(劇中に行く)

- ▶ 縄跳び
- ▶ コマ回し→手のせ少しなら出来るから見せたい
- ▶ 側転
- ▶ ピアノが弾けるからピアノを弾きたい
- ▶ なんか作りたい
- ▶ 何かを成功させたい(※事例発表で紹介します)
- ▶ フラフープ見せたい
- ▶ 踊りを作ってそれをみせたい
- ▶ 手遊びしたい
- ▶ わからない→一緒に考えよう

どんなお話にしたいか??

子どもたちになんでもいいからお話のタネを
だしてもらいます。

盛り上がりを見せたこどもたちの相談の映像
をご覧ください

(※発表当日にお見せします)

相談の難しさ

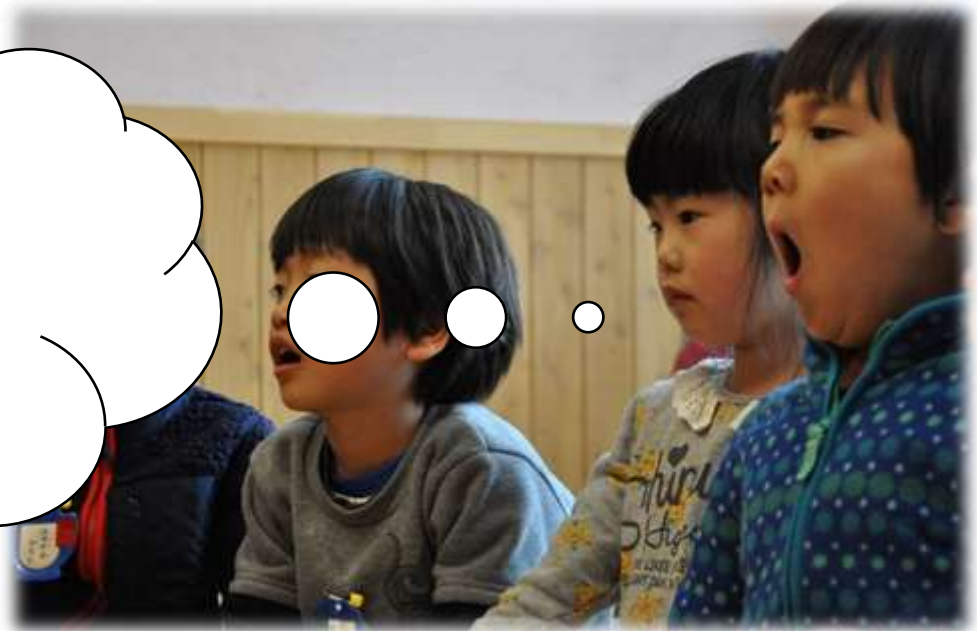
- 「何でもいいから、どんなお話にしたいか、お話のタネを出してごらん？」といってもよくわからない。(未知の話し合い)
- クラスのカラーにもよる(意見が出る代、全然出ない代)
- 保育者の入り具合がとても難しい。(入りすぎず、入らなすぎず)
- 最初は先が見えなくて保育者は心配になる「手をあげて意見を言ってください」といっても、ぼやきやつぶやきが意外にいい意見だったりする。
- 意見を出せない子がいる。→「君の意見も聞かせてと問いかけていく」
- 盛り上がっているときはいいが、長時間の相談になると飽きてしまう。



ああ...早く外遊びに
行きたいな



あー
疲れたー

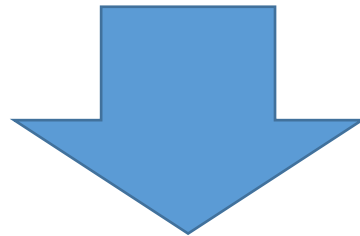


相談の中で出たこと(3回の相談)

- 楽しいところがあって 最後には幸せに(オペレッタみたいに)なりたい
- 忍者 走りたい
- 雪の妖精のお店屋さんに誰かが買いに来る
- お店に手裏剣がうっていたら買いに行くのにねえ
- 雪の結晶の手裏剣
- 悪いやつが出てきたらいいね
- 怖い鬼がいいやつになってさ
- 忍者が手裏剣を刺した
- しゅりけんは磁石でくっつける「あっ俺んちに確か磁石が6個くらいあるな」
- 鬼と仲良くなる
- 間違っって手裏剣を刺してしまう
- それを刺した忍者は気がつかない
- 誰かが困っているのを治したい
- 晴れの天気を雪にさせたい
- 雪がいっぱいになって冬眠しちゃう
- 冬眠の時みんな一緒に。
- 葉っぱの妖精 花の妖精と一緒に春を探す
- 雪にもするし晴れにもする
- おはなを咲かせたい
- 何かお店で雪を間違えて買ってしまう
- その後雪が舞い降りて冬眠しちゃう
- その雪を持っていたら雪を降らせる力を手に入れちゃった

このお話のキーワード

- 最後はみんな幸せになりたいらしい
- 雪の妖精はお店屋さんをやっているらしい
- 本当はやさしい鬼が怖い鬼になって何かをしちゃうらしい
- 雪手裏剣というものがあるらしい
- 雪が一杯になっちゃうらしい
- 誰かが困っているのを治したいらしい
- 一人ひとり挑戦したいことがあるらしい



最大限子ども達から出たキーワードに保育者が少し手を加え一つの物語を作り上げていきます。

子どもと保育者で共に作る 台本作り

- 子どもたちも性格が様々なので保育者はその子が言えそうなセリフ量を考えつつ、みんなに出番がくるように振り分けをして、台本を制作していく。アイデアが湧いてくる子などはその子にセリフを考えてもらうこともある。
- 劇の中で自分の登場シーンを音楽や踊りで出たい子たちがいた場合は、自分たちが過去に経験したオペレッタの曲や知っている曲、私が作詞・作曲した歌などを使い、登場します。決めるところまでは相談に乗り、動きや振り付けなどは子どもたち全て任せる。

その間、子どもたちは小道具・大道具、お面作り



必要な材料や見本を与えて、好きなように作ってもらう



台本完成 立ち稽古開始(劇のお約束)

- 「誰のために劇をやるんだっけ？」
- →黄色さん、桃さん、先生、お母さんやお父さん
- 「どんなことにでも、ものにはやり方ってものがあるんだよ」
- 前に出て、自分のセリフを言うときは「ゆっくり」「大きく」「はっきり」ということ。
- 待っているときはしゃべらない、ふざけない、ケンカしない。
- ドキドキして恥ずかしい事もあるけど、恥ずかしそうにしているのが一番恥ずかしい！応援しているから、ちょっと頑張ってやってみよう。なぜなら...



君たちはそれを乗り越えられるだけの力をもう持っているはずだから 君たちはすごい！

立ち稽古の様子です
映像をご覧ください
(※発表当日にお見せします)

ここで事件発生！！～S君の事例～

自分が挑戦したいことに取り組む



自分が挑戦したいことに取り組むT君

- T君はまだコマを回すことが出来ませんでした。しかし、「自分の挑戦したいこと」の中で「何かを成功させたい」と教えてくれたので、保育者から「コマを回せるようになるのはどう？」と提案しました。
- 毎日T君はコマ回しを行い、園のコマを家に持って帰って、週末も練習しました。最初は全く回らなかったコマも次第に回せる回数が増えてきました。
- 立ち稽古でのシーンでは中々回らなかったコマも、本番の日にはみんなの前で見事コマを回すことができたのです。T君はこのことをとても喜ぶ姿がありました。



青さん劇

「みんなのふゆとはるのもり」

ダイジェストでご覧ください

(※発表当日にお見せします)

まとめ

青さん劇を通しての子どもの学び

- 子どもたちの力は無限大。どんどん伸びるし吸収していく。
- 年長児とはいえまだ6歳。子どもたち主体のプロジェクトであっても、保育者が一緒になって共に劇作りを盛り上げることが大切だった。
- 劇を作っていく過程の中で子どもたちが相談し、相手の意見を聞いたり、発言する中で子どもたちはお互いを認めたり、尊重したり、大切にする姿があった。卒園に向けてよりクラスの結束力が深まったと思う。
- クラスであまり関わりを持たなかった子が役を通して、また新しい友達関係が生まれてきた。
- 保育者との関係がさらに深まり、やる時とやらない時のメリハリが子どもたちにしっかりついた。
- 自分が今まで出来なかったことに挑戦したり、得意なことをみんなの前でやってみることで、新しい自分に出会った。また、劇を見てくれた人たちに認めてもらい、誉めてもらう事で、その子の自信へ変わっていった。
- この作品を見た年中さんや年少さんが年長児に憧れを持ち、今度は僕たちがやるんだという気持ちになっていった。(園の文化になる)

S君はその後... 現在小学二年生

ご清聴ありがとうございました

